

実施学科課程表(2017~2023入学生)

社会イノベーション学科

(令和7年度)

分野	授業科目	新授業科目名	単位	開講年	実施時期	学科 基盤 科目	副専門科目			レベル	受講可能 年次	担当者	教員 免許 該科目	グ ロー バル 科目	ページ
							経済	経営 シス テム	地域 シス テム						
イ ノ ベ ー シ ョ ン と 経 営 分 野	アントレプレナーシップ入門	サステナブル・リーダーシップ入門	2	7	前					基礎	1年以上	未定			
	大分のものづくりと地域づくり	大分のものづくりと地域づくり I	2	7	後					基礎	1年以上	渡邊			1
	製品開発論	製品開発論	2	7	後	○	○	○	○	中級	2年以上	仲本			2
	市場開発論	市場開発論	2	7	後			○		中級	2年以上	松隈			3
	組織革新論	組織革新論	2	7	後			○	○	中級	2年以上	本谷			4
	研究開発マネジメント論 I	研究開発マネジメント論	2	7	前	○				中級	2年以上	未定			
	ベンチャー起業論	サステナブルビジネスと起業	2	7	前	○		○	○	中級	2年以上	渡邊			5
	金融イノベーション論	※なし	2	7	後		○	○		中級	2年以上	(非)鶴崎			6
	イノベーション戦略論	※なし	2	8*	前					応用	3年以上	仲本			
	研究開発マネジメント論 II	※なし	2	8*	後					応用	3年以上	非(八巻)			
	ベンチャー実践論	サステナブルビジネスと実践	2	7	後					応用	3年以上	渡邊			7
	ビジネスモデル論	ビジネスモデル論	2	7*	前					応用	3年以上	非(松岡)			8
	ブランド論	※なし	2	7*	後					応用	3年以上	松隈			9
イ ノ ベ ー シ ョ ン と 社 会 分 野	社会調査法	社会調査法	2	7	後		○	○	○	中級	2年以上	中本			10
	イノベーション社会論	イノベーション社会論	2	7	前				○	中級	2年以上	豊島			11
	現代社会分析論	※なし	2	不開講					○	中級	2年以上	豊島			
	イノベーション科学技術論	大分のものづくりと地域づくり II	2	7	後					中級	2年以上	渡邊			12
	ソーシャルイノベーション論	※なし	2	7*	前					応用	3年以上	豊島			13
	NPO・NGO論	※なし	2	不開講						応用	3年以上				
	技術革新論	※なし	2	不開講						応用	3年以上				
	知的財産論	※なし	2	7	後					応用	3年以上	非(野田)			14
イ ノ ベ ー シ ョ ン と 経 済 分 野	進化経済学 I	※なし	2	7	前		○			中級	2年以上	下田			15
	ゲーム理論	ゲーム理論	2	7	後	○	○			中級	2年以上	下田			16
	イノベーションの経済学	※なし	2	7	前	○	○			中級	2年以上	下田			17
	イノベーション学説史	※なし	2	7	後					中級	2年以上	非(金子)			18
	制度の経済学 I	制度の経済学	2	7	前		○			中級	2年以上	田村			19
	R&Dの経済学	※なし	2	不開講						中級	2年以上				
	都市イノベーション論	※なし	2	不開講						中級	2年以上				
	進化経済学 II	※なし	2	8*	後					応用	3年以上	下田			
	制度の経済学 II	※なし	2	8*	後					応用	3年以上	田村			
	組織と情報の経済学	※なし	2	不開講						応用	3年以上				
	商取引の経済学	※なし	2	不開講						応用	3年以上				

※開講年に「*」のある科目は隔年開講の予定である。

※上記「副専門科目」に○がついている学科の学生にとって、左の科目が副専門科目となる。

社会イノベーション学科の学生が経済学科の副専門科目を履修したい場合は、経済学科の実施学科課程表を参照し、社会イノベーション学科の下に○がついている科目を履修すること。

※グローバル科目欄に「○」のある科目は、国際フロンティア教育プログラム・グローバル科目であるため、全て英語による授業を行う。詳細は、教養教育科目ガイドブックを参照すること。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
K521M205	大分のものづくりと地域づくり I (Manufacturing and Community in Oita I)					学部基盤科目 経営メジャー系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
選択	2	1・2・3・4	経済学部	後期	水5	日本語		複数(共同)、オムニバス					
担当教員	氏名 社会イノベーションコース教員 E-mail 内線												
授業の概要	外部講師によるオムニバス形式の講義です。多彩な分野から講師をお招きして大分のものづくりや地域づくりを発展させるアイデア、方法を学びます。企業経営者や行政、NPOの関係者、各業界の専門家や実務家によるリアルな現場経験に基づいたお話しから、地域活性化のヒントを探求します。												
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	大分のものづくりと地域づくりにおける課題を発見、理解して説明できる。												
目標2	経験知・実践知を通じて社会課題の解決策としてのイノベーションの重要性について理解し、説明できる。												
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							2	8					
授業の内容													
1	ガイダンス												
2	食品分野												
3	農林分野												
4	芸術分野												
5	製造業												
6	流通業												
7	観光業												
8	宿泊業												
9	マスメディア												
10	地域、商店街												
11	NPO、ボランティア												
12	教育分野												
13	金融分野												
14	行政(県や市町村など)												
15	総括とまとめ(順番や内容は、変更することがあります。初回講義時にあらためて説明します)												
ア ン ク レ ィ ブ ラ ー	A:知識の定着・確認	・講義終了後に講師への質疑時間をとります。積極的に発言して、語られた言葉の真意を掘り下げてください。 ・講義で学んだことをレポートなど成果物にもらうことで、学びの定着化を図ります。											
	B:意見の表現・交換	エ そ 夫 の 他 の											
	C:応用志向	毎回の授業に関するコメントシートの作成、提出を求めます。コメントシートを通じて授業内で対応できなかった質問や感想に答え、内容を共有することで他の学生から学ぶ機会を設けます。											
	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	講義予定の講師に関する情報について図書館やインターネットで事前に概要を調べておくこと。講師への質問を1つ以上準備する。(事前学習30時間)											
	事後学修	講義を聞いた上で、あらためて講義に関する情報を調べてレポートを作成することで学びを深め、学習を発展させる。(事後学習15時間)											
	想定時間合計	45											
教科書	各講師が必要に応じて指定します。												
参考書	各講師が必要に応じて指定します。												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	毎回のコメント	15%	○	○									
	期末試験または期末レポート	85%	○	○									
	毎回、コメントを記入してもらうことで出欠も取ります。その際に、Moodleの事後課題機能を使う予定です。欠席回数が6回を超えると成績評価の対象外となります。												
注意事項	社会の第一線で活動されている方の話が聞ける良い機会です。現実の社会で起きていることを知り、大分の課題と可能性について理解を深めながら、いま暮らしている地域のことや社会全体への関心を広げてください。												
備考	授業の内容や順番は講師の都合により変更する場合があります。2017年度以降の入学生のみ受講可能です。後期間講科目「大分のものづくりと地域づくりII」と合わせて受講することをおすすめします。地域創生教育科目												
リンク	URL												
担当教員の実務経験の有無	○												
教員の实務経験	経営者として事業経営の経験(松谷)、シンクタンク研究員等(渡邊)												
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○												
教員以外の指導に関わる実務経験者	登壇者担当分野の実務とともに、それぞれの立場(企業経営者、技術者、現場責任者など)からの知見。												
実務経験をいかした教育内容	企業経営や実務の経験を通じて、現実の社会で求められる知識や考え方の習得を促進します。												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
K532M332	製品開発論 (Strategic Management for Product Development)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	金3	日本語		単独					
担当教員	氏名 仲本 大輔 E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714												
授業の概要	本講義は製品やサービスの開発に関わる様々なテーマを経営戦略論の観点から探っていきます。企業が存続し成長していくための方法の1つとして新製品や新サービスの開発がありますが、そのためには企業はいかなる経営戦略を策定し、組織を動かしているか、を理解することをねらいとします。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)							
目標1	企業の新規事業開発のあり方(新製品・新サービスの開発プロセス)について自らの視点で分析・考察できるようになる。					1	2	3	4	5	6	7	
目標2	企業の多角化戦略のあり方について自らの視点で分析・考察できるようになる。					○		○		○			
目標3	イノベーションと企業経営との関係について自らの視点で分析・考察できるようになる。					○		○		○			
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						8		1		1			
授業の内容													
1	ガイダンス												
2	経営戦略論の復習												
3	市場地位別の戦略												
4	企業の多角化戦略①												
5	企業の多角化戦略②												
6	企業の新規事業開発												
7	社内ベンチャー①												
8	社内ベンチャー②												
9	社内ベンチャー③												
10	イノベーションと企業の経営戦略①												
11	イノベーションと企業の経営戦略②												
12	イノベーションと企業の経営戦略③												
13	製品アーキテクチャ論①												
14	製品アーキテクチャ論②												
15	業界標準をめぐる企業の経営戦略												
ラーニング グループ	A:知識の定着・確認	講義で取り上げるテーマに関連するものを含め、企業経営に関する記事やニュース映像等を適宜見せ、解説をします。その際に注目すべき点、考えてみてほしい点も指摘し、さらなる学習を促します。					エ	そ	夫	他	の		
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	興味を持っている企業、業界に関するニュース、記事を積極的に見聞きしてください(各回1h,計15h)。											
	事後学修	講義で紹介した理論について、書籍等で復習やさらなる学習をしてください。また、企業経営に関するさまざまなニュースを、学習した理論枠組みでどのように解釈することができるか考えてみてください(各回2h,計30h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	開講時に指示します。												
参考書	・大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智(2016)『経営戦略[第3版]』有斐閣。ISBN:978-4641220652。 ・周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔(2009)『経営学I』実教出版。ISBN:978-4407316179。 他にも適宜紹介します。												
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	期末試験	90%	○	○	○								
	小レポート	10%	○	○	○								
講義で取り扱うテーマに関連するビデオを観る時間を1回設けます。そのビデオを観て気づいたことや考えたことなどを小レポートとして提出してもらいます。													
注意事項	レジュメ等を綴るためのA4サイズのファイルを用意してください。ノートも用意するのがぞましいです。												
備考	経営戦略論を受講してから受講するのがぞましいです。												
リンク	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K532M333	市場開発論 (Market Development Theory)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
選択	2	2,3,4	経済	後期	木2	日本語	英語	単独				
担当教員	氏名 松隈 久昭 E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680											
授業の概要	市場開発に関する理論と実践を学習し、市場開発の基本的理解を踏まえ、新たな市場を創造する際の課題を分析する基礎的能力を習得する。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	市場開発を行うための基本的な方法を習得すること。						1	2				
目標2	消費者の心理や行動を分析できるようになること。						3	4				
目標3							5	6				
目標4							7					
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)						7	3					
授業の内容												
1	市場開発の方法											
2	市場開発の理論											
3	デジタル社会のマーケティング											
4	デジタル社会の消費者行動											
5	ビジネスモデルの事例研究											
6	デジタル・マーケティングの基本概念											
7	製品戦略の事例研究1											
8	製品戦略の事例研究2											
9	価格戦略の事例研究1											
10	価格戦略の事例研究2											
11	チャンネル戦略の事例研究1											
12	チャンネル戦略の事例研究2											
13	プロモーションの事例研究1											
14	プロモーションの事例研究2											
15	まとめ											
ラフィクニティグループ	A:知識の定着・確認	○ テーマに関連する企業の市場開行動を示すので、比較研究してほしい。それにより具体的な市場開行動を理解してほしい。レポートにより知識の確認を行う。					エ夫その他	クイズにより理解を深める。				
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造	○										
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。30時間。										
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べること。20時間。										
	想定時間合計	50										
教科書	未定。初回の授業時に指定する。受講する方は、必ずテキストを入手してください。テキストからレポート課題を指定します。											
参考書	コトラー「マーケティング・マネジメント」プレジデント社 (1996)											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	40%	○									
	試験	60%		○								
	新型コロナ対策のために、遠隔授業にする場合があります。											
注意事項	受講する方は、必ずテキストを入手してください。 出席が基準以下の場合、評価しないので注意すること。 私語禁止。座席は指定席とします。											
備考	中級レベルの科目のため、2年生以上の履修が適切です。関連する科目は、マーケティング論、製品開発論です。 新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業(オンデマンドを含む)になる場合があります。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K442S402	組織革新論 (Organizational Change and Innovation)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語			担当形態							
選択	2	2,3,4	経	後期	月1	日本語				単独							
担当教員	氏名 本谷 るり E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7707																
授業の概要	経営組織論の知識や理論を習得した上で、それらを応用して「組織の革新」を考える諸理論を学び、自ら考えることがこの講義のねらいです。企業組織が継続力を持つためには革新することが大きなポイントとなります。企業の事例を見ながら、どのような革新をいかに行うか、また次の革新につなげることを考えます。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7	
目標1	企業組織の革新や変革に関する理論を身につける。																
目標2	企業組織の継続と発展について、変革の理論を用いて説明することができる。																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)						5		5									
授業の内容																	
1	ガイダンス、経営組織論の復習																
2	組織のライフサイクルモデル(1)																
3	組織のライフサイクルモデル(2)																
4	組織と戦略のダイナミクス(1)																
5	組織と戦略のダイナミクス(2)																
6	組織文化の変革																
7	組織学習(1)																
8	組織学習(2)																
9	組織化と進化(1)																
10	組織化と進化(2)																
11	前半の復習、中間試験																
12	戦略的な組織変革(1)																
13	戦略的な組織変革(2)																
14	組織変革の事例(1)																
15	組織変革の事例(2)																
フィードバックシート	A:知識の定着・確認	<input type="checkbox"/>	内容の理解、知識の習得ができたかを確認する課題を配布します。				エ	講義中に提示する図表の資料を配布、moodleにアップロードします。									
	B:意見の表現・交換	<input type="checkbox"/>					そ										
	C:応用志向	<input type="checkbox"/>					夫										
	D:知識の活用・創造	<input type="checkbox"/>					の										
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	経営組織論の基礎知識が必要な科目です。経営組織論に関して不足すると思われる知識や理論に関わるテキストや文献を読んでから出席してください。さらに本科目に関する文献や論文も提示しますので、あらかじめ読んでおきましょう。(30h)															
	事後学修	授業内容を再度確認し、整理しましょう。各回で紹介する文献も参考にしてください。(15h)															
	想定時間合計	45															
教科書	講義期間にわたって常に用いる教科書はありません。授業の際に資料を配布し、参考文献の提示を行います。復習に活用してください。																
参考書	各回の講義中に関連する文献を提示します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	中間試験(12/15予定)	50%	○	○													
	期末試験	50%	○	○													
注意事項	・専門性が高いので、前期開講の経営組織論を履修しておく方がより理解が深まるでしょう。その他の経営学関連の科目も受講済みの学生さんにおすすめします。 ・私語や遅刻など他者に迷惑をかける行為は慎んでください。																
備考	研究室はいつでもオープンにしています。質問などはいつでもどうぞ。																
リンク																	
	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K532M336	サステナブルビジネスと起業 (Sustainable Business and Entrepreneurship)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択	2	2	経済学部	前期	木4	日本語		単独									
担当教員	氏名 渡邊博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702																
授業の概要	本授業では、サステナブル視点に基づき、中小企業やベンチャー企業、スタートアップなどについて考えていきます。アントレプレナーシップ、イノベーションの歴史や本質、ネットワークやエコシステムなどについて把握し、ヒト・モノ・カネ・ジョウホウといった経営資源の活用の仕方など起業や事業展開のための条件や手法も検討します。大分の企業や金融機関、行政の方々などにもゲストスピーカーとして登壇いただき、課題の深掘りとアイデアを創出します。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)																
目標1	中小企業やベンチャー企業、スタートアップなどの分類や歴史、ビジネスの側面を把握し、関連する多くの知識を得る。	1	2	3	4	5	6	7									
目標2	一国経済の中でイノベーションやアントレプレナーシップの必要性と重要性を理解する。	○															
目標3	サステナブル視点に基づくこれからの起業と企業のあり方について考える。	○		○													
目標4	アイデアの創出を繰り返す。	○	○	○													
目標5	自ら起業する可能性がある場合は、その準備をする。			○	○	○											
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)		4	1	3	1	1											
授業の内容																	
1	中小企業・ベンチャー企業、スタートアップの定義と取り巻く経済・産業・社会、イノベーション																
2	ものづくり中小企業の歴史的展開																
3	中小企業やベンチャー企業に関する特徴(1) サプライヤー・システム																
4	中小企業やベンチャー企業に関する特徴(2) 社会ネットワーク																
5	起業の民主化と理論的視角																
6	起業家の認知																
7	起業と組織																
8	起業をめぐる環境																
9	ベンチャー企業とスタートアップ、スピニアウトとスタートアップ																
10	プラットフォーム・ビジネス																
11	アントレプレナー・エコシステム																
12	起業とグローバリゼーション																
13	大分における中小企業・ベンチャー企業、スタートアップの事例研究(1) モノづくり分野																
14	大分における中小企業・ベンチャー企業、スタートアップの事例研究(2) サービス提供分野																
15	講義のまとめ、サステナビリティと起業に関するこれから																
ア ラ ク ニ テ ィ グ ラ フ	A:知識の定着・確認	○	事例研究、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション、ディスカッション				エ そ 夫 の 他 の	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。									
	B:意見の表現・交換	○	など。														
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(15時間) 興味ある中小企業・ベンチャー企業などを取り上げ、その成り立ちや歴史、現状や今後の戦略についての調査(15時間)															
	事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)															
	想定時間合計	45															
教科書	・加藤厚海・福嶋路・宇田忠司『中小企業・スタートアップを読み解くー伝統と革新、地域と世界』(有斐閣ストゥディア)有斐閣、2023年。																
参考書	・忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行他『アントレプレナーシップ入門ーベンチャーの創造を学ぶ』[新版](有斐閣ストゥディア)有斐閣、2022年。 ・トーマツベンチャーサポート『起業の教科書』日経BP社、2016年。 ・松田修一『ベンチャー企業(第4版)』(日経文庫ー経営学入門シリーズ)日本経済新聞社、2014年。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験結果						50%	○	○	○	○	○					
	授業参加姿勢(アイデア創出、課題対応など)						50%	○	○	○	○	○					
	上記のことをもとに総合的に評価します。																
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。																
備考	地域創生教育科目																
リンク	URL																
担当教員の 実務経験の有無	○																
教員の実務経験	シンクタンク研究員等																
教員以外で指導に 関わる実務経験者の有無	○																
教員以外の指導に 関わる実務経験者	企業経営、金融機関、行政等に関わる方々																
実務経験をいかした 教育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
K442S404	金融イノベーション論 (Financial Innovation)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	担当形態						
選択	2	2,3,4	経済	後期	月3	日本語	単独						
担当教員	氏名 鶴崎 清貴 (非常勤講師) E-mail kuzaki@oita-u.ac.jp 内線												
授業の概要	金融イノベーションとは、IoTやビッグデータそして人工知能といった技術革新が金融と産業のあり方を大きく変え、これまでは考えられなかったような新たな金融サービスです。金融イノベーションは、プロダクト・イノベーション、プロセス・イノベーション、ソーシャル・イノベーション、そしてセキュリティ・イノベーションの4つのイノベーションが総合し、相乗効果を生むことにより、創出されます。金融イノベーションは、金融業からのみ生まれるとは限らず、他の産業からも生まれる可能性があり、産業の垣根を越える、あるいは国境を超える競争となります。本講義では、金融イノベーションの意義と事例を明らかにするとともに、ビッグデータを解析できるRを用いてファイナンスを解説します。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	金融イノベーションの専門用語を理解することができる。					○							
目標2	金融イノベーションの基礎を習得し、社会で生じている経済諸問題を理解できる。								○	○	○		
目標3	企業に関わる諸問題を解決する方法を習得でき、資格取得に役立つ。							○					
目標4	企業の社会的責任の重要性を理解できる。								○				
目標5	Rの基礎を学習できる。					○							
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						3	2	3	1	1			
授業の内容													
1	イントロダクション												
2	金融イノベーションの意義												
3	銀行業における金融イノベーション												
4	保険業における金融イノベーション												
5	Rの導入と基本的操作												
6	収益率と回帰分析												
7	イールドカーブと主成分分析												
8	ポートフォリオ理論												
9	資本資産評価モデル(CAPM)												
10	金利スワップ												
11	プライシングとツリーモデル												
12	Black&Scholes 公式												
13	モンテカルロシミュレーション												
14	まとめ												
15	予備日												
ニアップ グレイ ブラ	A:知識の定着・確認	○	講義中に問題を解き、知識の確認を行っています。また講義中に時事経済・経営問題を議論します。					工 夫 の 他 の					
	B:意見の表現・交換	○	ビッグデータを分析できる高度な統計ソフトであるRの取得に努めます。										
	C:応用志向	○	これを用い、データ分析を行います。										
	D:知識の活用・創造	○											
授業時間外 学修の内容と 想定時間	準備学修	日経新聞を読むように勤めています。(1.5時間)											
	事後学修	レポートや課題を出しています。(1.5時間)											
	想定時間合計	45											
教科書	大崎秀一・吉川大介(2013)『ファイナンスのためのRプログラミング』共立出版。												
参考書	Welch, Ivo, 2011. Corporate finance an introduction 2nd Editon (Prentice Hall).市村昭三編(1995)『財務管理論』創成社出版年。 秋山裕(2018)『Rによる計量経済』オーム社。 坂本恒夫・文堂弘之(2007)『成長戦略のための新ビジネス・ファイナンス』中央経済社。諸井勝之助(1990)『経営財務講義』東京大学出版会。 各テーマの参考文献は、講義時に指定します。												
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	講義中の発言	20%											
	レポート	30%											
	期末テスト	50%											
注意事項	銀行・証券業界等財務関連職種希望者および各種国家試験(証券アナリスト・公認会計士・税理士等)を受験希望の者の受講を歓迎します。												
備考	パワーポイントを用い講義を進め、講義ごとに資料を配付します。												
リンク	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の実務 経験	公認会計士事務所顧問、株式会社非常勤監査役												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式				
K532M337		サステナブルビジネスと実践 (Sustainable Business and Entrepreneurial Practice)					メジャー専門科目 経営メジャー科目		対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	木3	日本語		単独					
担当教員	氏名 渡邊博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702												
授業の概要	本授業では、サステナブル視点に基づき、中小企業やベンチャー企業、スタートアップに関する定義や概念、関連するイノベーションやアントレプレナーシップなどについてさらに理解を深めていきます。また、ベンチャー起業のビジネス的側面として、新しい事業機会、アイデアの育成、収益の仕組み、販売促進や市場開拓、差別化や事業の強み、資金計画などを認識したうえで、実際にビジネスプランを作成してもらいます。ビジネスモデルの構築とその事業可能性などについて考察しながら、様々な知識を用いてビジネスプランを考え、他者に説明する機会を設定します。場合によっては、ビジネスプランの実践を行うなど、本授業を自身のキャリアの一環として捉えてください。なお、大分の企業や金融機関、行政の方々などにもゲストスピーカーとして登壇いただき、課題の深掘りとアイデアを創出します。												
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)						
目標1	サステナブル視点のもと、イノベーションやアントレプレナーシップなどの起業に関わる概念を確認し、社会と関連づける。						1	2	3	4	5	6	7
目標2	起業のビジネス的側面を把握する。						○						
目標3	ビジネスプランの作成を通じて起業やベンチャーを考える。						○		○				
目標4	作成したビジネスプランを他者に説明する。						○	○	○				
目標5	場合によっては、作成したビジネスプランを実践する。								○	○	○		
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							4	1	3	1	1		
授業の内容													
1	イノベーションとアントレプレナーシップ、サステナブルビジネスと現代社会における起業												
2	起業のビジネス的側面(1) 新しい事業機会とその評価												
3	起業のビジネス的側面(2) アイデアの育成												
4	起業のビジネス的側面(3) 収益の仕組み												
5	起業のビジネス的側面(4) 販売や市場開拓												
6	起業のビジネス的側面(5) 差別化や強み												
7	起業のビジネス的側面(6) 資金調達と資金管理												
8	起業のビジネス的側面(7) 事業計画書の作成												
9	ビジネスモデルの構築と事業としての設立可能性												
10	ビジネスプランの作成(1) 概要や事業の内容、優位性など												
11	ビジネスプランの作成(2) 市場把握、顧客やユーザーの特性など												
12	ビジネスプランの作成(3) 資金や費用、考えられるリスクなど												
13	作成したビジネスプランの発表(1) 自分の発表												
14	作成したビジネスプランの発表(2) 他者の評価												
15	講義のまとめ、サステナブルビジネスと起業などのこれからのあり方												
ラーニング	A:知識の定着・確認	○ディスカッション、グループワーク、個人ワーク、ビジネスプランの作成、プレゼンテーション、事例研究など。		エ		各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。							
ニ	B:意見の表現・交換	○		夫									
ン	C:応用志向			の									
グ	D:知識の活用・創造			他									
の				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン				の									
グ				の									
ラ				の									
ー				の									
ニ				の									
ン													

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K443S404	ビジネスモデル論 (Analysis of Business Model)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	担当形態					
選択	2	3,4	経済学部	前期	火4	日本語	単独					
担当教員	氏名 松岡輝美 E-mail matsuoka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668											
授業の概要	ビジネスモデルとは顧客と企業の双方に向けた価値創造と提供の仕組みです。ビジネスモデルの構成要素とそれらの相互関連を可視化して、検討することで評価や改良、革新に役立てることができます。特に優れた仕組みを作り出している企業のビジネスモデルをケース分析します。実習では、各受講生が将来就職活動を行う際に役立つように興味や関心がある企業のビジネスモデルの分析を行います。											
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)					
目標1	専門的な用語の理解と説明ができる						1 2 3 4 5 6 7					
目標2	基礎的な原理を理解して説明ができる						1 2 3 4 5 6 7					
目標3	ビジネスモデルと戦略の関係を理解して説明できる						1 2 3 4 5 6 7					
目標4	ビジネスモデルの分析実習						1 2 3 4 5 6 7					
目標5	ワーカーの多様な働き方の実現する仕組みを理解する						1 2 3 4 5 6 7					
目標6	持続可能な社会構築のための新たな価値づくりに対する意識を育てる						1 2 3 4 5 6 7					
目標7							1 2 3 4 5 6 7					
目標8							1 2 3 4 5 6 7					
目標9							1 2 3 4 5 6 7					
目標10							1 2 3 4 5 6 7					
各DPへの関連度(計10)							3 3 1 2 1					
授業の内容												
1	オリエンテーション ビジネスモデルとはなにか											
2	ビジネスモデルと戦略との関係											
3	ビジネスモデルケース分析1											
4	ビジネスモデルケース分析2											
5	ビジネスモデルケース分析3											
6	ビジネスモデルケース分析4											
7	ビジネスモデルケース分析5											
8	ビジネスモデルケース分析6											
9	ビジネスモデルケース分析7											
10	ビジネスモデルケース分析8											
11	ビジネスモデルケース分析9											
12	ビジネスモデルケース分析10											
13	ビジネスモデル分析実習1 資料収集と分析・ディスカッション											
14	ビジネスモデル分析実習2 レポートの作成											
15	ビジネスモデル分析実習3 最終レポートの作成											
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認	○	10回分のケース分析の説明を理解した上で自分でも興味や関心のある企業のビジネスモデルを具体的に分析してみます。				エ そ 夫 の 他 の	分析に必要なツールやレポートの雛形を提供します。				
	B:意見の表現・交換	○	事業の構造と価値創造の仕組みを理解して地域や社会に意義のある新たな価値提案を考えてみましょう。									
	C:応用志向	○										
	D:知識の活用・創造	○										
授業時間外学 修の内容と想 定時間	準備学修	講義で取り扱うケース分析の企業に関する記事やニュースに目を通して理解を深めてください。(1.5時間)										
	事後学修	毎回の講義の後に配布資料に目を通して振り返りましょう。復習することで飛躍的に知識の定着度が変わります。(1.5時間)										
	想定時間合計	45										
教科書	資料を印刷して配布します。											
参考書	関各講義に関連する記事やニュースのURLやPDFをMoodleにアップするので目を通してください。											
成績評 価の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	講義中のディスカッション	15%	○	○	○	○	○	○				
	課題	15%	○	○	○		○	○				
	最終レポート	70%	○	○	○		○	○				
期末試験はありません。最終課題はビジネスモデルの分析レポートを作成して提出してもらいます。												
注意事項	欠席をする時には事前にメールで連絡をください。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の実務 経験	企業コンサルタント・シンクタンクでの講師兼アドバイザー											
教員以外の 指導に関わる 実務経験者	先方とのスケジュールがあれば、遠隔でお話をさせていただく機会を設けます。											
実務経験を いかした教育 内容	設計開発に関わったDX事例についての具体的な解説											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K443S405	ブランド論 (Brand theory)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	3,4	経済学部	後期	月3	日本語	英語	単独							
担当教員	氏名 松隈久昭 E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680														
授業の概要	ブランド論の理論的展開を説明した後に、現代企業のブランド構築について、現状と課題を示す。具体的には、ブランド・エクイティ論、ブランド・エクスペリエンス論などの理論を説明し、企業や非営利組織のブランディングに関する事例を示す。														
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ブランド構築の理論と方法を学ぶこと。							○							
目標2	具体的な商品について、ブランド構築を提案できること。								○						
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								8	2						
授業の内容															
1	ブランド論について(1)														
2	ブランド論について(2)														
3	ブランディングの必要性(1)														
4	ブランディングの必要性(2)														
5	ブランディングの理解(1)														
6	ブランディングの理解(2)														
7	ブランディングの設計														
8	ブランディングの中核概念														
9	ビジネスとブランド(1)														
10	ビジネスとブランド(2)														
11	ブランディングの推進														
12	ブランディングの効果測定														
13	知的財産・商標について(1)														
14	知的財産・商標について(2)														
15	まとめ														
ラーニング	A:知識の定着・確認	○ レポートにより知識の確認を行う。				エ	クイズにより理解を深める。								
	B:意見の表現・交換					そ									
	C:応用志向					夫									
	D:知識の活用・創造					他									
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。(30時間)													
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べる。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと。(20時間)													
	想定時間合計	50													
教科書	授業の初回に提示します。 受講する方は、必ずテキストを入手してください。														
参考書	黒岩・水越「マーケティングをつかむ」有斐閣(2023)														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	レポート(クイズを含む)	30%	○												
	試験	70%		○											
遠隔授業にする場合があります。その場合は、初回の授業時にお知らせします。また、遠隔授業の時は、評価方法と割合を変更する予定です。															
注意事項	受講する方は、必ずテキストを入手してください。私語をしないこと。座席は指定席とします。														
備考	ZOOMでの授業(オンデマンドを含む)になる場合があります。														
リンク	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K532E342	社会調査法 (Social Research Method)					メジャー専門科目 経済メジャー科目	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	金2	日本語	英語	単独							
担当教員	氏名 中本 裕哉 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677														
授業の概要	私たちの日常生活では、世論調査、市場調査などの社会調査に触れる機会が多い。しかし、そのような社会調査の手法や調査結果の解釈は必ずしも正確であるとは言えない。重要なことは、調査結果を公正かつ適切に解釈することである。本講義では、調査票調査を中心に社会調査の基本的な方法論を修得する。さらに、実際に調査を実施し、得られたデータに統計分析を適用することで、問題に対する解決策を議論する。														
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	社会調査法の基礎を修得する。							○							
目標2	調査データに統計分析を活用し、問題に対する解決策を議論する。									○					
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)						6		2		2					
授業の内容															
1	ガイダンス														
2	社会調査の企画I:講義														
3	社会調査の企画II:グループ演習														
4	調査の設計I:講義														
5	調査票の設計II:グループ演習														
6	ランダムサンプリング														
7	実査I:講義														
8	実査II:グループ演習														
9	統計分析I:講義														
10	統計分析II:グループ演習														
11	調査データの分析I:講義														
12	調査データの分析II:グループ演習														
13	報告書の作成I:講義														
14	報告書の作成II:グループ演習														
15	まとめ														
ラーニング コンピ テンシ ープ	A:知識の定着・確認	<input type="radio"/>	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。					エ そ 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換	<input type="checkbox"/>													
	C:応用志向	<input type="checkbox"/>													
	D:知識の活用・創造	<input type="radio"/>													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	参考書などを使用して予習する。(15h)													
	事後学修	授業で扱う例題や小テストなどを通して復習する。(30h)													
	想定時間合計	45													
教科書	教科書を指定しない														
参考書	盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣、2004年 大谷信介ほか著『(第2版)社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房、2005年														
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	小テスト	20%	○												
	中間課題	20%	○	○											
	レポート課題	60%	○	○											
小テスト、中間課題、レポート課題から総合的に評価する。調査の企画、設計、実査、分析、およびプレゼンテーション、報告書の作成は、グループワークで行う。															
注意事項	「統計学」を履修していると理解が深まりますが、基礎的な統計手法は本講義で修得します。受講者には、グループワークへの積極的な参加(特に、自分の考えを発信すること)を求めます。														
備考															
リンク	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
K532R302		イノベーション社会論 (Innovation and Society)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	火2	日本語		単独								
担当教員	氏名 豊島慎一郎 E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線 7708															
授業の概要	本講義では、情報通信技術(ICT)の革新に伴うコミュニケーションの変容や社会変動等の様々な社会現象を関連づけながら、社会学の観点からイノベーションの社会的・文化的な諸条件やプロセスを明らかにし、今後の政策的・実践的方策や社会システムのあり方を考える。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	「イノベーションの社会学」に関する基礎的知識や応用力を修得する。								○							
目標2	与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。									○						
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									5	5						
授業の内容																
1	講義説明															
2	イノベーションと現代社会															
3	イノベーションとまちづくり1(観光まちづくり)															
4	イノベーションとまちづくり2(まちづくりNPO等)															
5	イノベーションとまちづくり3(「農村イノベーション」)															
6	イノベーションと高齢社会5(シニアSOHO)															
7	イノベーションと高齢社会6(高齢者とICT活用)															
8	中間のまとめ・試験															
9	イノベーションと災害支援1(東日本大震災等)															
10	イノベーションと災害支援2(災害支援とICT)															
11	イノベーションと災害支援3(災害支援とSNS)															
12	イノベーションと災害支援4(災害復興のまちづくり)															
13	ソーシャル・イノベーションとは何か1(市民主体のまちづくり)															
14	ソーシャル・イノベーションとは何か2(展望と課題)															
15	総論															
ラ フ ア イ ク ニ テ ン イ グ ラ フ	A:知識の定着・確認	○	小レポートの提出を毎回課す(Moodleを使用)。				エ そ 夫 の 他 の	映像資料やMoodleの活用。								
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて予習する(22h)。														
	事後学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて復習する(23h)。														
	想定時間合計	45														
教科書	教科書は指定しない。 講義で使用した資料は、Moodleにアップロードする。															
参考書	野中郁次郎ほか、2014、『実践ソーシャル・イノベーション』千倉書房。 野中郁次郎編、2021、『共感が未来をつくる：ソーシャルイノベーションの実践知』千倉書房。 大澤健・米田誠司、2019、『由布院モデル：地域特性を活かしたイノベーションによる観光戦略』学芸出版社。ほか															
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	平常点(小レポート等)	50%	○	○												
	中間・期末試験	50%	○	○												
	小レポートおよび中間・期末試験の合格を単位取得の条件とする。															
注意事項	講義の進行上、スケジュールを変更する可能性がある。															
備考																
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式				
K532M339		大分のものづくりと地域づくりⅡ (Manufacturing and Community in Oita Ⅱ)					メジャー専門科目 経営メジャー科目		対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態				
選択	2	2	経済学部	後期	月5	日本語			単独、オムニバス				
担当教員	氏名 渡邊博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702												
授業の概要	大分地場企業の経営者や現場責任者などに登壇いただき、当該企業を事例として、今日までの歴史、技術や製品の特徴、マネジメントや組織運営などの現状と課題、経営資源の活用の仕方、発展戦略としてのイノベーションへの取り組み方や産官学等組織連携などについて把握します。また、当該企業と社会や地域との関係性、そこでの役割、制度や仕組みなどについても理解し、大分のものづくりや地域づくりを学びます。将来の進路を考えるきっかけとしてください。なお、この授業は、大分県雇用労働政策課とも連携をしながら進めていきます。												
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)						
目標1	地場企業の歴史、現状と課題などを通して、大分の産業や企業を知る。						1	2	3	4	5	6	7
目標2	企業と社会との関係性、制度や仕組みなどへの考え方を通して、企業の特徴を理解する。						○		○				
目標3	マネジメントや経営資源の活用、イノベーションへの取り組み、産官学連携などの様子を通じて、大分の今後を考える。						○		○		○		
目標4	大分におけるものづくりや地域づくりへの理解を通して、自らの進路選択やキャリアプラン形成に活用できる。								○		○		
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							4		4	1	2		
授業の内容													
1	ガイダンス、大分県の産業や企業、地域との関わり方などについて												
2	(有) ビューティフルライフ												
3	KIHARA Commons (株)												
4	(有) 中村設備工業												
5	イジゲングループ (株)												
6	(株) ミカサ												
7	金融機関												
8	(株) エイビス												
9	新電力おおいた (株)												
10	T-PLAN (株)												
11	大分デバイステクノロジー (株)												
12	(株) オーイーシー												
13	(株) 大分からあげ												
14	九州ナノテック光学 (株)												
15	まとめと今後に向けて(上記は昨年度「イノベーション科学技術論」で登壇された企業名を掲載。企業や順番は変更することがあります。)												
評価方法	A:知識の定着・確認	○	講義で学んだことをまとめてもらいます。						エ	双方向的なやりとりができるように工夫します。			
	B:意見の表現・交換	○	講義内容に関する質疑応答など積極的に行ってもらいます。双方向的なやりとりをします。						そ				
	C:応用志向								夫				
	D:知識の活用・創造								の				
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	外部講師の所属組織や関連の産業等に関する調査(20h)											
	事後学修	授業に関するまとめや気づきの明確化(15h)、大分の産業や企業のまとめと自身の進路選択やキャリア形成への落とし込み(10h)											
	想定時間合計	45											
教科書	教科書は指定しません。各講師が必要に応じて指示します。												
参考書	各講師が必要に応じて指示します。												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	各回のレポート	60%	○	○	○								
	期末試験あるいはレポート	40%	○	○	○								
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。												
備考	地域創生教育科目												
リンク	URL												
担当教員の実務経験の有無	○												
教員の実務経験	シンクタンク研究員等												
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○												
教員以外の指導に関わる実務経験者	企業経営者、現場責任者、プロジェクトリーダー等												
実務経験をいかした教育内容	技術や製品開発、マネジメントやイノベーションに関する手法、産官学連携や地域貢献等												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
K443S406	ソーシャルイノベーション論 (Social innovation and society)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
選択	2	3,4	経済学部	前期	火I	日本語		単独					
担当教員	氏名 豊島慎一郎 E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線 7708												
授業の概要	本講義では、福祉・まちづくりNPO等によるソーシャル・ビジネスを事例として、社会学の観点からソーシャルイノベーションと社会参加について考える。講義内容の理解を深めるため、社会的課題の解決をテーマとしたグループ・ディスカッションやグループ報告も行う。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)							
目標1	「イノベーションの社会学」に関する専門的知識や応用力を修得する。					1	2	3	4	5	6	7	
目標2	報告や議論を通して理解を深める。						○	○					
目標3	与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。						○	○					
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						4	3	3					
授業の内容													
1	オリエンテーション												
2	ソーシャルイノベーションとは何か												
3	ソーシャルイノベーションと現代社会												
4	ソーシャルイノベーションと地域社会												
5	ソーシャルイノベーションとまちづくり												
6	大学生によるソーシャルイノベーションの実践1(大分大学の事例)												
7	大学生によるソーシャルイノベーションの実践2(他大学の事例)												
8	中間報告・レポートの作成												
9	ソーシャルイノベーションとボランティア												
10	ソーシャルイノベーションとNPO												
11	ソーシャルイノベーションと災害対応1(阪神・淡路大震災の事例)												
12	ソーシャルイノベーションと災害対応2(東日本大震災の事例)												
13	ソーシャルイノベーションと災害対応3(熊本地震の事例)												
14	ソーシャルイノベーションと災害対応4(防災・減災活動の事例)												
15	総論												
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ラ フ	A:知識の定着・確認	○ 小レポートの提出およびグループ・ディスカッションを毎回実施する					エ そ 夫 の 他 の	映像資料やMoodleの活用。					
	B:意見の表現・交換	○ (Moodleを使用)。											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と 想定時間	準備学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて予習する(22h)。											
	事後学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて復習する(23h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	教科書は指定しない。 講義で使用した資料は、Moodleにアップロードする。												
参考書	野中郁次郎ほか, 2014, 『実践 ソーシャル・イノベーション』千倉書房。 野中郁次郎ほか, 2021, 『共感が未来をつくる: ソーシャルイノベーションの実践知』千倉書房。												
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	平常点(主体性・協調性・思考力、小レポート)	60%	○	○	○								
	中間・最終レポート	40%	○	○	○								
注意事項	講義の進行上、スケジュールを変更する可能性がある。 「イノベーション・マネジメント入門」、「情報社会論」、「イノベーション社会論」、「現代社会分析論」を履修済みか履修中であることが望ましい。												
備考	講義の運営上、履修希望者が15名を超える場合は抽選を実施する。 履修については、下記サイト等で担当教員の研究内容をよく理解したうえで決定すること。												
リンク	大分大学経済学部豊島研究室 URL http://www.ees.ec.oita-u.ac.jp/toyosima/												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式														
K443S409		知的財産論 (Intellectual property Theory)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態															
選択	2	3,4	経	後期	火	日本語		単独															
担当教員	氏名 野田 佳邦 (非常勤講師) E-mail noda@oita-pjc.ac.jp 内線																						
授業の概要	企業において技術開発に従事する者に限らず、あらゆる社会活動を行う人々にとって、知的財産に関する知識は必須となっています。産業財産権法と呼ばれる4法(特許法, 実用新案法, 意匠法, 商標法)のみならず、情報化社会の発展により、著作権法、不正競争防止法など、実際の企業活動の実務において必要となる法律知識の重要性もますます高まっています。この授業では、知的財産関連法について幅広く対象とし、現在の企業活動において必要とされる知識と実践的能力を会得することを目的とします。講義や検索演習を通じて、単なる教科書知識ではなく、より実践的な知識・スキルの修得を目指します。																						
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7								
目標1	知的財産権の法体系上の位置づけ、その意味を理解できる。								○														
目標2	特許・実用新案・意匠・商標制度の概要を理解できる。								○														
目標3	知的財産情報の検索について理解できる。										○												
目標4	不正競争防止法、その他の関連法の概要を理解できる。											○											
目標5	著作権制度の概要を理解できる。											○											
目標6																							
目標7																							
目標8																							
目標9																							
目標10																							
各DPへの関連度(計10)									4		2	4											
授業の内容																							
1	知的財産権とは																						
2	特許・実用新案制度																						
3	意匠制度・デザインの保護																						
4	商標制度・ブランドの保護																						
5	知財情報の検索(1) J-PlatPatを用いた検索																						
6	知財情報の検索(2) J-PlatPatを用いた検索																						
7	不正競争防止法																						
8	その他の権利やルール、復習																						
9	中間試験																						
10	著作権(1) 著作権制度の目的、意義、全体像、著作物																						
11	著作権(2) 著作者、著作者人格権、																						
12	著作権(3) 財産権、著作権の保護期間																						
13	著作権(4) 著作権の制限																						
14	著作権(5) 著作隣接権、侵害																						
15	総復習、まとめ																						
フィードバック	A:知識の定着・確認	D:知識の活用・創造				PCを用いた知財情報の検索演習を実施する。	エ		その		他の												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	知的財産に関するニュースをチェックし、自分なりの考えを持つこと(20h)。																					
	事後学修	新聞などで知的財産に関する記事をチェックし、学修した内容と照らし合わせる(25h)。																					
	想定時間合計	45																					
教科書	「産業財産権標準テキスト 総合編 第5版」発明推進協会、野田佳邦「はじめての知的財産調査～創作したら調査しよう～」三恵社																						
参考書	野田佳邦「ちょさく犬が答える！SNS時代の著作権」三恵社(2021年)																						
成績評価の方法及び評価割合	評価方法											割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	ミニレポート課題											20%											
	中間試験											40%											
	期末試験											40%											
注意事項																							
備考																							
リンク	URL																						
担当教員の実務経験の有無	○																						
教員の実務経験	特許審査官、弁理士																						
実務経験をいかした教育内容	知的財産制度について講義形式で授業を行うものです。																						

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
K442S410	進化経済学 I (Evolutionary Economics I)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	木3	日本語		単独					
担当教員	氏名 下田 憲雄 E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683												
授業の概要	経済学のモデル分析は様々な経済システムの相互作用を、相互の関係を分析することを目指している。この場合、ミクロ経済学やマクロ経済学においては、分析手段として最適化が重要な役割を果たしている。また、様々な動学理論、経済成長論や景気循環論といった時間を明示的に扱う議論もある。しかしながら、経済のシステム自体が時間の流れのなかでどのような変化をしていくのかを、またその諸システムがおかれている空間を議論するモデルはなく、こうした点に分析をすすめる分野として進化経済学が発展している。進化経済学 I では進化ゲーム理論の基礎の習得と経済学への応用などを概観する。本授業では、進化経済学の内容を展望するものではなく、その基本的な概念や社会イノベーションとの関わりが深いものを勉強していく。よって、この授業ではその基礎を理解してもらうことが狙いである。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)							
目標1	経済システムの進化とは何かを理解できること、ならびにイノベーションとの関わりを理解することを目標とする。					1	2	3	4	5	6	7	
目標2						○	○						
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						8	2						
授業の内容													
1	イントロダクション(進化経済学の様々な論点)												
2	進化と経済学(1)												
3	進化と経済学(2)												
4	進化とゲーム理論(1)												
5	進化とゲーム理論(2)												
6	進化とゲーム理論(3)												
7	中間的総括1(確認テスト)												
8	進化ゲーム理論の応用(1) 進化的安定性と倫理												
9	進化ゲーム理論の応用(2) 進化と社会制度(1)												
10	進化ゲーム理論の応用(3) 進化と社会制度(2)												
11	中間的総括2(確認テスト)												
12	進化ゲーム論と経済学(1)												
13	進化ゲーム論と経済学(2)												
14	進化ゲーム論と経済学(3)												
15	イノベーションと進化経済学												
ラーニング チェック シート 評価	A:知識の定着・確認	○	2回程度の中間的総括と小テストを実施する。小テストは講義中に30分程度を予定している。理解度が深まることを期待する。					エ そ 夫 の 他 の					
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	資料等により事前の予習を行う(30時間)											
	事後学修	課題等を通じて知識の定着をはかる(15時間)											
	想定時間合計	45											
教科書	テキストは指定しないが、初回の講義のときに説明する。												
参考書	『進化経済学とは何か』進化経済学会編 有斐閣												
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	中間レポート	30%	○										
	学期末試験	70%	○										
注意事項													
備考	ゲーム理論、ミクロ経済学、マクロ経済の知識が必要となるので、これらの知識についても予習しておくことが望ましい。												
リンク	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
K532E307	ゲーム理論 (Game Theory)					メジャー専門科目 経済メジャー科目	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態						
選択	2	2,3,4	経	後期	木1	日本語		単独						
担当教員	氏名 下田 憲雄 E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683													
授業の概要	主に経済学の例を用いてゲーム理論の基礎を勉強します。多数の意思決定者相互の戦略的な関係を前提に、個々人がどのような行動を選択するのかを勉強します。													
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	
目標1	相互の意思決定が影響し合う状況下での意思決定の問題を認識して、ゲームをプレーするプレイヤーがそれぞれ単独に意思決定						○							
目標2	非協力ゲームのゲームとしての状況を表現する戦略形と展開形ゲームならびに対応するゲームの解を求めることができる。						○							
目標3														
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							10							
授業の内容														
1	ゲーム理論とは													
2	戦略的考え方・・・選択と意思決定													
3	戦略ゲーム1・・・戦略的考え方と事例紹介													
4	戦略ゲーム2・・・確率的戦略、経済学での応用事例													
5	ナッシュ均衡1・・・再適応とは。													
6	ナッシュ均衡2・・・定義と計算方法													
7	ナッシュ均衡3・・・確認テスト1													
8	展開形表現1・・・ゲームの木													
9	展開形表現2・・・展開形表現と戦略形表現の関係													
10	部分ゲーム完全均衡1・・・情報完備性と展開形ゲーム													
11	部分ゲーム完全均衡2・・・逐次手番ゲーム、確認テスト2													
12	繰り返しゲーム													
13	情報不完備なゲーム													
14	ベイジアン均衡・・・確認テスト3													
15	講義まとめ													
ラーニング コンピ タンス グループ	A:知識の定着・確認	○	講義内容に対応した問題を解答して提出してもらい、講義においてその解説を行う。					エ そ 夫 の 他 の	事例による理解によって、理論の意味を習得する。					
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	テキストや資料により予習する(30時間)												
	事後学修	練習問題や課題の解答などにより、復習し知識の定着をはかる(15時間)												
	想定時間合計	45												
教科書	『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマ 岡田章 有斐閣(2014年)													
参考書	『ゲーム理論』新版 岡田章 有斐閣(2021年)													
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	小テスト・レポート	30%	○	○										
	学期末試験	70%	○	○										
注意事項	理解を確認するため、確認テストを3回程度実施する。													
備考	関連科目: 経済数学、統計学、経済学(I、II)、ミクロ経済学、マクロ経済学など													
リンク														
	URL													

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
K432S304		イノベーションの経済学 (Economics of Innovation)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	火3	日本語		単独								
担当教員	氏名 下田 憲雄 E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683															
授業の概要	シュンペーター以来、経済学におけるイノベーションは、経済の成長、経済発展や生産との関係で発展してきたが、制度的要因、企業の知的財産、ライセンスといった多岐の分野にわたっている。新しい技術の普及には様々な制度的要因が関わるが、中でも所有権の設定の重要性について、歴史上の技術革新の事例と突き合わせながら検討する。またイノベーションと直接関連のある知的財産制度及び競争政策について、経済学の視点から解説する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	経済学におけるイノベーションは、多様な形態で発展していること、またその重要性を理解することを目標とする。								○							
目標2																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									7		3					
授業の内容																
1	はじめに…経済学におけるイノベーションの役割															
2	イノベーションとマクロ経済															
3	生産関数とイノベーション															
4	生産要素からみたイノベーション															
5	科学技術の変化と経済発展															
6	情報技術の進化と経済															
7	イノベーションと市場の創出・進化															
8	まとめ1 小テスト1															
9	経済学とダーウィニズム1															
10	経済学とダーウィニズム2															
11	技術開発と経路依存性1															
12	技術開発と経路依存性2															
13	イノベーション、進化とゲーム理論1															
14	イノベーション、進化とゲーム理論2															
15	まとめ2 小テスト2															
ラーニング コンテ ンツ グ	A:知識の定着・確認	○ 2回の小テストを実施し、理解度が深まることを期待する。					エ そ 夫 他 の	Moodleを活用した資料の提示、レポート提出を通じて学生の理解を確認する								
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	Moodleにアップされる資料を使つての予習(30時間)														
	事後学修	講義内容の復習、課題等の提出(15時間)														
	想定時間合計	45														
教科書	特に指定しない。 講義に関する資料を適宜moodleにアップする。															
参考書	・W. プライアン・アーサー『テクノロジーとイノベーション』みすず書房、2011年 ・進化経済学会『進化経済学とは何か』有斐閣、1988年															
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	2回の小テスト	100%	○													
注意事項	公欠で小テストを受験できない場合は追試等を実施する。															
備考																
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K442S409	イノベーション学説史 (History of Innovation Economics)					社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	オンライン (同時双方向型)									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	2,3,4	経	後期	金I	日本語		単独								
担当教員	氏名 金子 創 (非常勤) E-mail 内線															
授業の概要	私たちの周囲には、私たちの日常生活を豊かにしてくれる様々な技術が溢れている。それらが私たちにとって使い勝手のよい形式で提供されているのは、これまでの(何らかの)「イノベーション」の結果と言え、その意味でイノベーションはありふれた現象と考えられる。本科目では、そのような現象が経済学においてどのようにとらえられてきたか、について歴史的に考察する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7		
目標1	誰の、どのような行動がイノベーションと呼ばれるか、を学ぶ。							○				○				
目標2	また、それが経済全体へどのような影響をもたらすか、を整理する。						○				○					
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							4		4		2					
授業の内容																
1	ガイダンス															
2	問題意識と基本概念：生産者と企業家															
3	生産過程の理解と企業家概念															
4	階級の認識と企業家機能															
5	古典派における安定的な資本家															
6	完全競争市場と経営															
7	経営の役割：生産要素の結合															
8	経営の役割：組織化															
9	経営の役割：仲介															
10	独占企業と超過利潤															
11	均衡と不均衡，到達過程															
12	リスクと不確実性，歴史的展開のまとめ															
13	現代のイノベーション：イノベーションのジレンマ															
14	現代のイノベーション：政策的含意と帰結															
15	まとめ															
ラフ	A:知識の定着・確認	○	・授業内で議論の時間を設ける。					エ	そ	夫	の	他	の	・LMS (Moodle) を活用する。		
ニ	B:意見の表現・交換	○	・毎回課題(ディスカッションを含む)を設け、理解を確認する。													
テ	C:応用志向															
ィ	D:知識の活用・創造	○														
グ																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	配布資料の理解 (15h)														
	事後学修	・復習 (15h) ・課題 (15h)														
	想定時間合計	45														
教科書	・教科書は指定しない。 ・配布資料を用いる。															
参考書	・ウィリアム・J・ボーモル『自由市場とイノベーション』勁草書房、2010年。ISBN978-4326503421 ・I・M・カーズナー『企業家と市場とはなにか』日本経済評論社、2001年。ISBN978-4818813007 ・J・A・シュムペーター『経済発展の理論(上、下)』岩波書店、1977年。ISBN978-4003414712、978-4003414729															
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末試験		80%	○	○											
	課題提出		20%	○	○											
注意事項	すべての課題の提出を単位取得の要件とする。															
備考																
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K532E309		制度の経済学 (Institutional Analysis)					メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語			担当形態							
選択	2	2,3,4	経済	前期	金2	日本語				単独							
担当教員	氏名 田村哲也 E-mail ttamura@oita-u.ac.jp 内線 7706																
授業の概要	一般に経済学は、合理的な個人を想定し、そうした個人間でおこなわれる取引を分析します。しかし、わたしたちは数多くの「制度」(ルール・予想・規範・組織など)に囲まれており、その影響を常に受けながら意思決定をし、経済活動をおこなっています。この授業のねらいは、そうした「制度」という視点から経済を分析する手法を学ぶことにあります。そのために必要な概念や専門知識について学びながら、日本経済、世界経済の動向を解説していきます。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7	
目標1	私たちの経済活動がどのような制度的影響を受けたものであるのかを把握する。						○									○	
目標2	制度という視点から、私たちが生きる資本主義経済についての理解を深める。						○			○							
目標3	制度について学ぶことで、現代経済の問題を考えられるようになる。						○		○	○					○		
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)							3		2	3				2			
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	制度とは																
3	制度とホモ・エコノミクス(1): 諸個人の利潤追求行為																
4	制度とホモ・エコノミクス(2): 諸個人の他者に対する同感																
5	制度としての市場																
6	組織としての企業																
7	労働分配率の決定																
8	グローバル化・ゼーション下の企業行動																
9	国際収支の変化とグローバルな不均衡																
10	資本主義の多様性と制度的比較優位(1): 経済調整の多様性																
11	資本主義の多様性と制度的比較優位(2): 制度的補完性と制度的比較優位																
12	格差と制度(1): 格差の概観とその倫理・哲学的次元																
13	格差と制度(2): 格差をどのように解消するか																
14	政治的なものと経済的なもの																
15	まとめ																
リンク グレイ プ ラ イ	A:知識の定着・確認	○ 毎回の授業終了後に、Moodle LMS上での「授業の事後課題」の提出を義務づける。その結果を踏まえ、必要と思われる場合には次回の授業の冒頭で取り上げ、補足的な説明を行います。					エ そ 夫 の 他 の	Moodle LMSを活用します。									
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	配布資料を踏まえての予習(15h)															
	事後学修	授業の事後課題への回答(30h)															
	想定時間合計																
教科書	教科書は指定せず、配布資料を用います。																
参考書	・アブナー・グライフ『比較歴史制度分析 上』ちくま学芸文庫、2021年。ISBN 978-4480510112 ・藤田、北川、宇仁『現代制度経済学講義』ナカニシヤ出版、2023年。ISBN 978-4779517082 他にも適宜紹介する。																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	期末試験	60%	○	○	○												
	授業の事後課題提出	40%	○	○	○												
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																